

## Ⅱ. 緩和ケア支援室 事業報告



## 緩和ケア支援室の取り組み

平成 25 年 3 月に、第二次広島県がん対策推進計画が策定され、この計画の中で、緩和ケアの推進は、目指す姿に掲げる「がんと診断された時から、希望する場所で、すべてのがん患者と家族が、適切な緩和ケアを受けられること」を実現するため、質の高い施設緩和ケア及び在宅緩和ケアを確実かつ円滑に提供する体制を整備することを目的としており、平成 25 年度から「切れ目ない緩和ケアの推進を図るため」施設緩和ケア推進事業及び在宅緩和ケア推進事業の 2 つを新たに展開し、更なる推進強化を図ってきました。

1 つ目の施設緩和ケア推進事業では、緩和ケア病棟連絡協議会及び緩和ケアチーム等連絡協議会を設置し、サービスの質の向上に向けた取組を行うため、活動の実態調査をし、評価や公表をおこないました。緩和ケア病棟では、職種別（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー）に意見交換の場を設け好評でした。また、地域緩和ケア従事者研修会を実施し人材の育成を行いました。2 つ目は、在宅緩和ケア推進事業として、地域在宅緩和ケア推進協議会を設置し、地域における在宅緩和ケアの実践を支援するため、病院と在宅医療の相互連携、多職種間の連携、医療と介護の連携などを円滑に進めるための仕組づくりを行っています。地域ネットワーク会議、地域資源マップの作成、地域在宅緩和ケアコーディネーターの配置体制等の協議を行っています。また、それぞれの地域の実情に合った在宅緩和ケアの実践に向け、平成 25 年度から順次地域を選定し各 2 年間モデル事業を実施しました。【平成 25・26 年度①広島中央圏域：東広島地区医師会、②広島西圏域：厚生連広島総合病院、平成 26・27 年度①福山・府中圏域：福山市医師会、②広島圏域：安佐市民病院、③備北圏域：市立三次中央病院、平成 27・28 年度①呉圏域：呉市医師会、②尾三圏域：三原市医師会に委託。】地域在宅緩和ケアコーディネーター（28 名）を配置し、連携調整等の役割を担ってきました。また、今年度、本事業の最終報告書を作成して関係者に啓発を行いました。

県民を対象とした講演会は、『在宅緩和ケア～ケアタウン小平チームの取り組み～』と題し、ケアタウン小平クリニック院長である山崎章郎先生に、講演をいただきました。アンケートでは、「自分の死に方について改めて考えさせられた」「地域を引き込んで、それを還元しながら在宅医療の充実を図ってきたことに感銘を受けた」「看取りと尊厳のあり方について勉強になった」「在宅緩和ケアの原点を再認識した」「在宅は人とのつながりと人の思いを共感共有する大切さがあると感じた」「いつも患者の目線にそった姿勢があり、あたたかいお話だった」等があり、よい普及啓発ができたと思っています。

県の死亡場所別死亡者数をみると、自宅（一部施設含）で死亡する人【がん患者再掲】が平成 24 年は 12.0%【6.9%】、平成 28 年は 12.7%【9.4%】と増加してきています。住み慣れた地域で安心して、最期まで生活できる体制や医療と介護の連携を整備する「地域包括ケアシステム」が重要とされています。その際の要になる介護支援専門員や地域連携・相談業務を行っている職員の質の向上を目的に、「介護支援専門員及び地域連携職種研修」で、臨死期から看取りまでの関わりについて演習や事例検討を行い、好評でした。

平成 29 年度の緩和ケア支援室事業の推進にあたり、各関係機関、関係者の皆様方に御協力をいただき感謝いたします。平成 30 年度からは、第三次広島県がん対策推進計画で進めていく予定であり、今後も患者や家族、関係機関の皆様の声を聴きながら、「がんと診断されたときから切れ目ない緩和ケアが受けられ、自分の望む場所で安心して療養ができ、広島県に住んでいて良かった」と言ってもらえるように課題を施策化し、体制整備等前向きに取り組みを推進していく所存ですので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、緩和ケア支援センターは今年度末で廃止され、がん対策課に事業が移管されます。長年の御支援、御協力をありがとうございました。深く感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

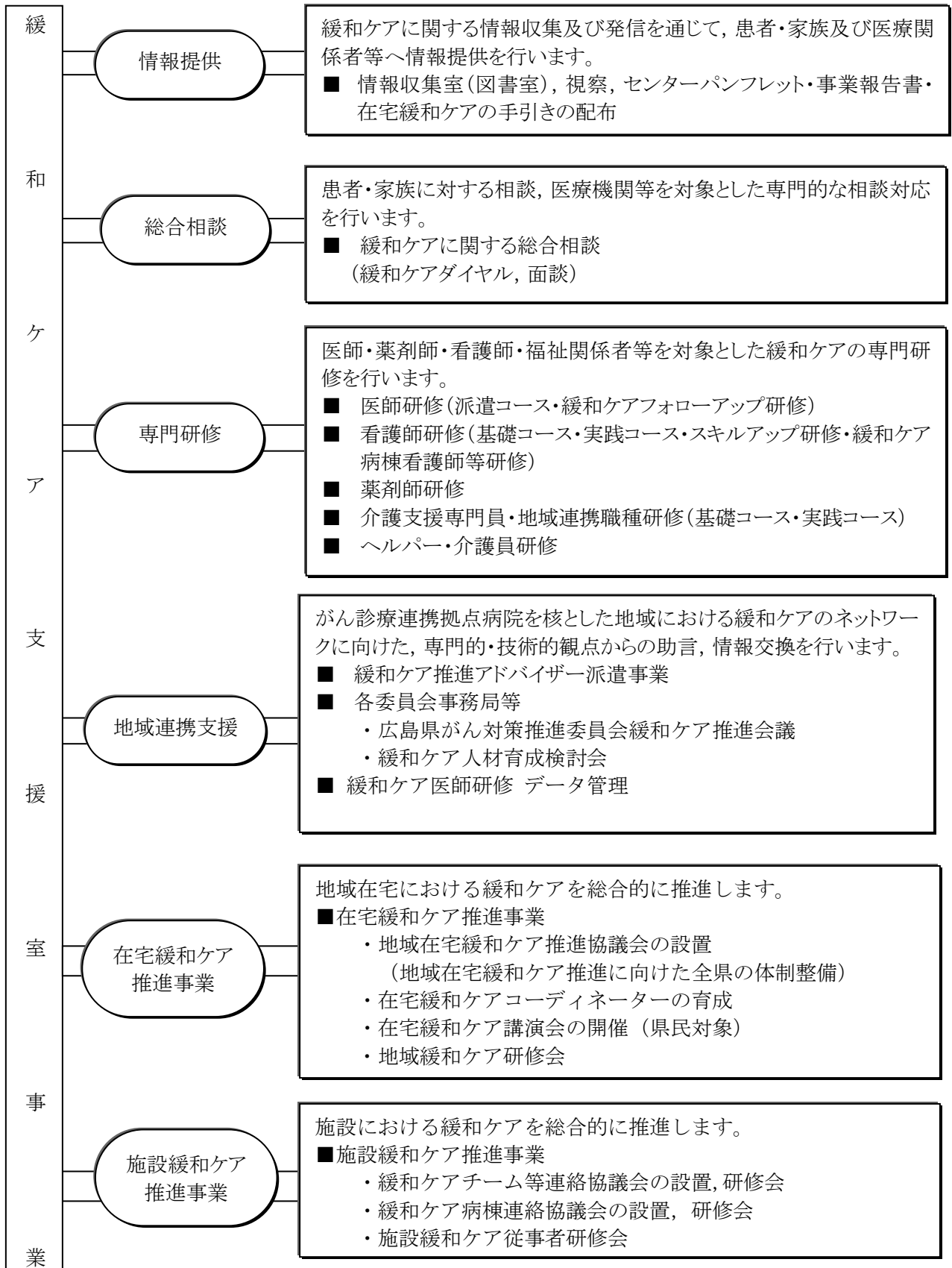
広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室長 亀井 典子



## II. 緩和ケア支援室事業

### 1. 事業構成（平成 29 年度）

緩和ケア支援室事業は、従来の情報提供・総合相談・専門研修・地域連携支援・在宅緩和ケア推進事業・施設緩和ケア推進事業の6本柱で構成し、広島県第2次がん対策推進計画（H25～H29年度）のがん対策の柱の一つである緩和ケアについて、在宅及び施設における緩和ケアを総合的に取り組みました。



## 2. 事業報告

### 1) 情報提供事業

#### 1)－(1) 緩和ケア支援センターインターネット情報提供事業

●趣 旨	緩和ケアに関する国内外の情報収集及び発信を通じて、患者や家族及び医療・健康福祉関係者への情報提供を行う
●内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアとは（緩和ケアの考え方・緩和ケアの導入のタイミング・在宅緩和ケアと施設緩和ケアの推進）</li> <li>・緩和ケア支援センターの概要（センター整備事業目的・構成と役割 等）</li> <li>・緩和ケア科（緩和ケア外来・緩和ケア病棟・診療案内 等）</li> <li>・緩和ケア支援室（情報提供・総合相談・専門研修・地域連携支援事業 地域緩和ケア推進総合対策事業 等）</li> <li>・ひろしまの緩和ケア（現状と課題・緩和ケア病棟の整備状況・県内関連機関 等）</li> </ul>
●ホームページアドレス	<a href="http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/">http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/</a> 広島がんネット>広島県緩和ケア支援センター>情報提供(図書室・視察)

#### 1)－(2) 情報収集室

●趣 旨	緩和ケアに関する国内外の情報収集および発信を通して患者や家族及び医療関係者への情報提供を行う
●対 象	県病院に入院中の患者や家族或いは外来患者のみならず医療関係者や関係機関職員，一般県民が利用できる
●開室時間	月～金 午前 10 時～午後 4 時

#### ■ 情報収集室の活用資源と利用状況

平成 29 年度末の図書コーナーの本は 2,364 冊，その内訳は次のとおりである。

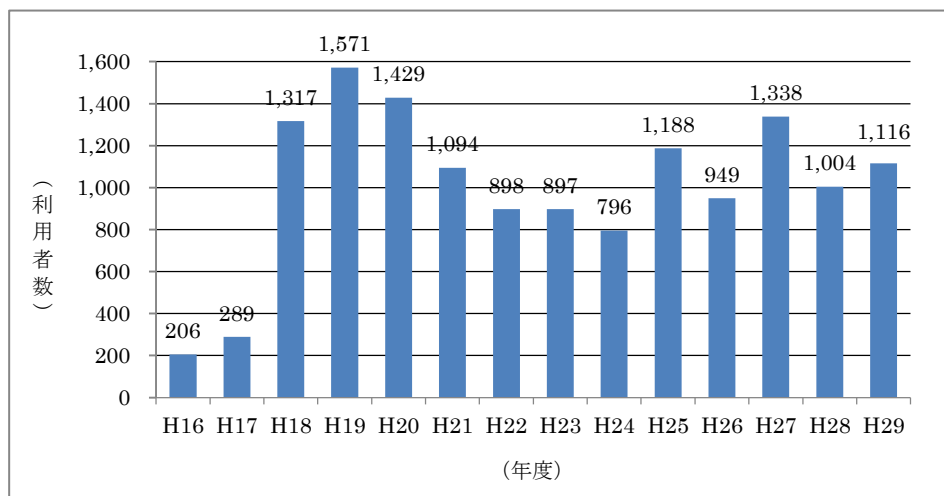
また、情報収集室の利用状況は平成 29 年度 1,116 名であり、前年に比べて増加した。

#### ● 図書コーナーにある本の内訳

内訳	数(冊)
医学書	755
一般書	1,051
児童	203
雑誌	355
	計 2,364
製本雑誌	94
ビデオ, DVD	39 本
定期購読新聞	2 紙

(H30.2.28 現在)

#### ● 情報収集室 年次別利用状況



※平成 29 年度は、平成 30 年 2 月末までの集計

#### ■ 定期購読の月刊, 季刊誌

『がん看護』『緩和ケア』『コミュニティケア』『Journal of Palliative Care』

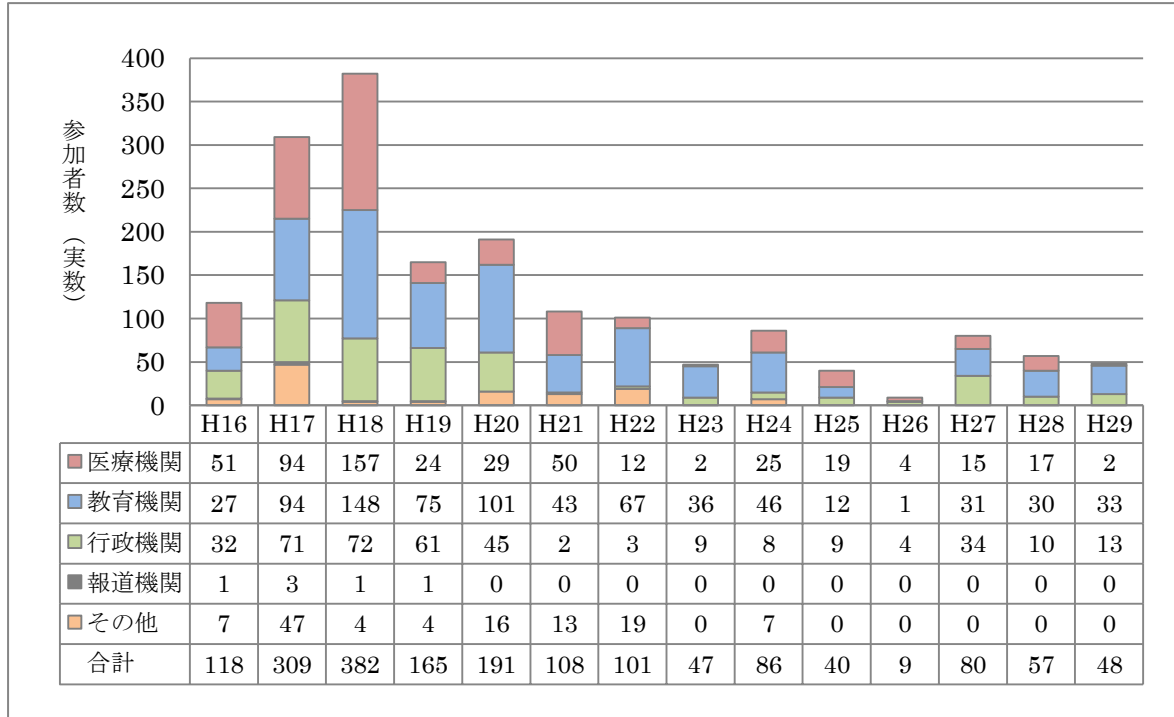
### 1)－(3) 視察・報道・取材等

#### ■視察者の状況

緩和ケアに関する理解を深めるため、医療従事者、行政関係者等を対象に、随時日程等を調整して視察への対応を実施している。(電話・FAXにて受付)

視察者は、平成 25～26 年度は減少傾向にあったが、平成 27～29 年度は医療機関、教育機関、行政機関からの視察があった。

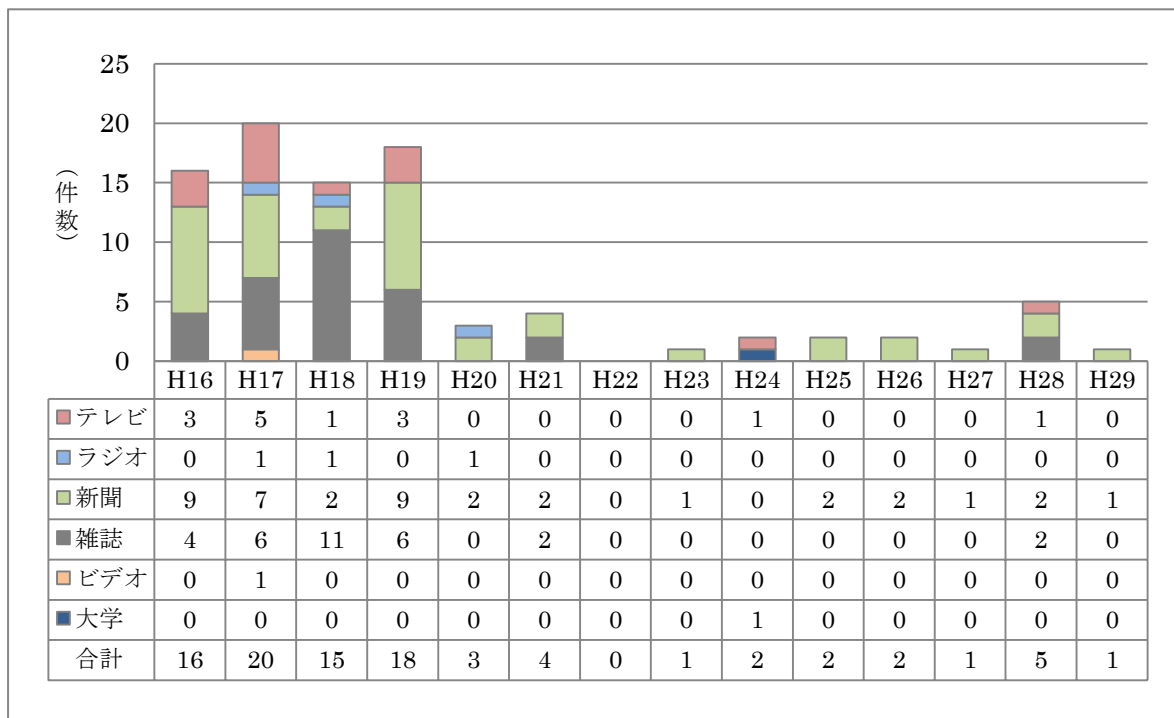
#### ● 視察年次別状況



※平成 29 年度は、平成 30 年 2 月末までの集計

#### ■報道・取材等

平成 20 年度以降、報道・取材等は減少した。平成 28 年度はテレビ、新聞、雑誌からの取材が若干増加したが、平成 29 年度は減少している。



※平成 29 年度は、平成 30 年 2 月末までの集計

## 2) 総合相談事業

### 2) - (1) 緩和ケアダイヤル

●趣 旨	患者・家族及び医療福祉関係者を対象に、緩和ケアに関する様々な問題に対し、課題の整理に向けた助言や、コンサルテーション（専門的な相談対応）を行う。
●対 象	患者・家族・医療福祉関係者等
●方 法	緩和ケア支援室内に専用電話の設置（専用電話番号：082-252-6245）
●日 時	月～金曜日
●スタッフ	支援室職員 3名

#### ■相談状況

当センターの平成 29 年度緩和ケアダイヤル相談は 88 人（実数）であり、その内訳は、専門職からの相談が 46.6%、家族からの相談が 37.5%、患者本人からの相談が 12.5%となっている。

相談経路別にみると、「がん診療連携拠点病院」からの相談が最も多く 33 人で、全体の 37.5%を占めている。次いで、「その他の病院」、「患者・家族」の順であった。平成 28 年度から県立広島病院の緩和ケア外来診療の予約窓口を変更したため、平成 27 年度に比べ、「がん診療連携拠点病院」からの相談が半数以下に減少した。平成 29 年度は、予約窓口変更が定着したためか、更に減少している。

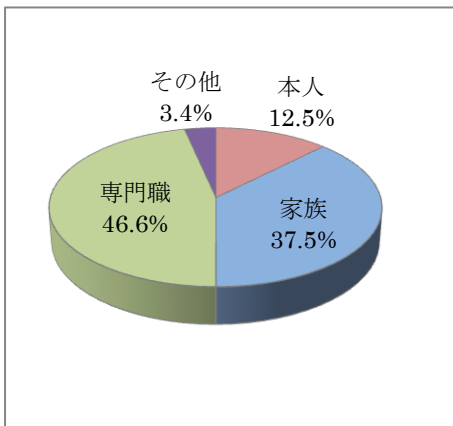
#### ● H29 年度緩和ケアダイヤル相談状況

相談者	経路 実数	がん診療 連携拠点 病院	その他の 病院	診療所	居宅介護 支援 事業所	老人保健 施設	ホーム ページ	その他	患者・家族
本人	11	2							9
家族	33	12	6				3		12
専門職	41	19	17	3	1	1			
その他	3							3	
合計	88	33	23	3	1	1	3	3	21

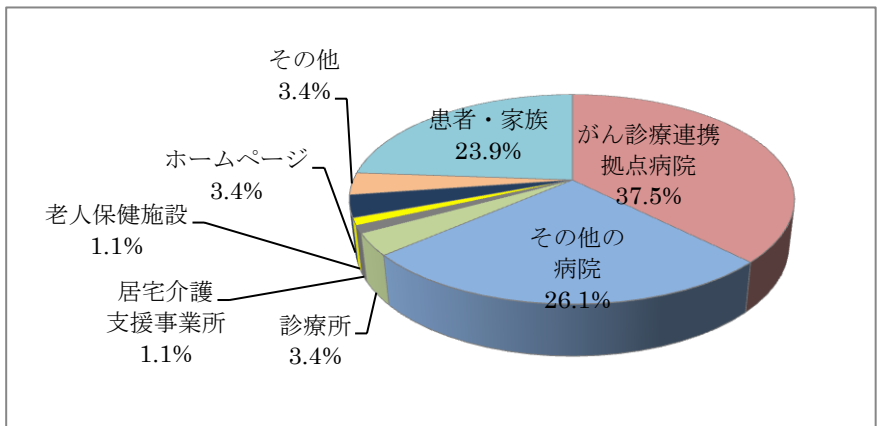
※ 相談者その他：知人、在宅緩和ケア講演会受講者

※平成 29 年度は、平成 30 年 2 月末までの集計

#### ● H29 年度緩和ケアダイヤル相談者別状況



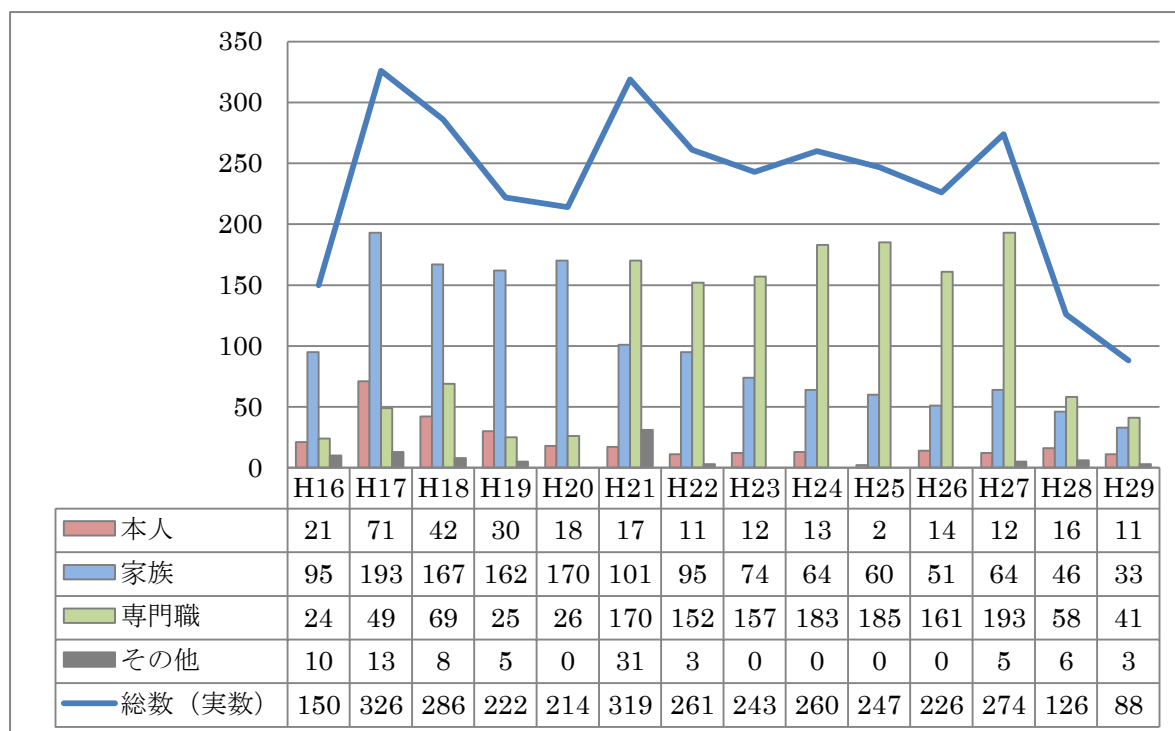
#### ● H29 年度緩和ケアダイヤル相談経路別状況



注) グラフの割合（パーセント）は、  
小数点第 2 位四捨五入、以下同様とする。



● 緩和ケアダイヤル年次別相談者内訳状況



※平成 29 年度は、平成 30 年 2 月末までの集計

● 緩和ケアダイヤル相談内容別状況

相談内容 年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
病気について	7	2	0	17	19	9	3	1	3	2	1	0	0
緩和ケアについて	21	20	16	34	40	42	19	17	15	16	13	5	3
症状緩和について	48	22	9	12	35	12	16	18	10	2	4	2	3
治療について	54	20	5	4	14	25	11	9	5	5	8	8	7
主治医との関係	3	2	2	0	11	1	1	2	0	0	0	1	0
セカンドオピニオン	1	1	1	0	1	3	1	3	2	3	0	0	0
緩和ケア外来受診	55	35	48	28	163	157	162	182	172	160	189	77	52
緩和ケア病棟入院	46	100	98	77	146	157	187	203	200	196	244	98	66
保険制度・費用	1	4	2	8	8	19	0	1	1	6	14	3	0
今後の療養生活	34	12	18	17	11	14	3	7	11	8	2	2	1
在宅療養について	25	3	4	6	16	15	10	14	9	3	2	0	2
デイホスピス	15	13	5	5	12	0	1	2	0	0	1	1	0
その他	16	52	14	6	57	7	2	3	2	11	6	11	6
合計(件数)	326	286	222	214	533	461	416	462	430	412	484	208	140

※平成 29 年度は、平成 30 年 2 月末までの集計

年次別相談者状況は、平成 21 年度以降「専門職」からの相談が多い。

「専門職」とは、がん診療連携拠点病院を中心とした主治医、地域連携室等である。

H29 年度緩和ケアダイヤルの相談内容は、「緩和ケア外来受診」「緩和ケア病棟への入院」が、合せて 118 件で全体の 84.3%を占めている。

## 2)–(2) 個別面談

●趣 旨	「緩和ケアダイヤル」利用者や面談者に対し、予約面談を実施し、対象者の問題解決を支援する
●対 象	「緩和ケアダイヤル」利用者、患者、家族、関係機関担当者
●面談時間	1回 30分～40分程度
●場 所	相談室
●方 法	「緩和ケアダイヤル」後、個別面談の希望に応じてスタッフで対応する。
●スタッフ	支援室職員 3名

### ■実績と状況

当センターのH29年度個別面談は全体で15人（実数）、その内訳は「家族」面談が12人で80.0%、「患者本人」面談が3人の20.0%であった。

相談経路別では「がん診療連携拠点病院」経路が12人と80.0%を占めている。

### ● H29年度緩和ケア面談相談経路別状況(実数)

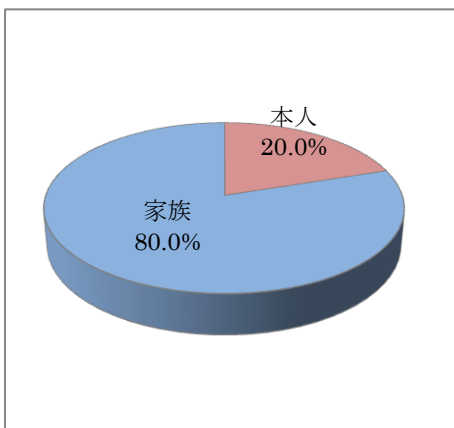
相談者	経路	
	実数	割合
本人	3	20.0%
家族	12	80.0%
専門職		
その他		
合計	15	100.0%

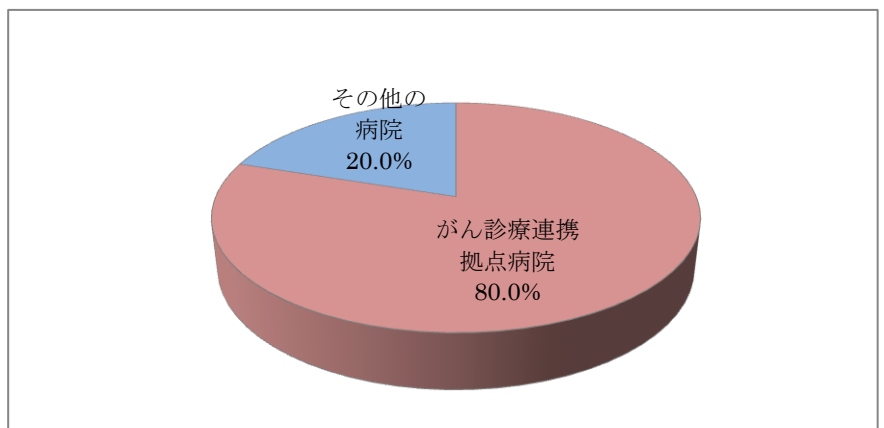
相談者	がん診療連携拠点病院		その他の病院	
	実数	割合	実数	割合
本人	3	100.0%	0	0.0%
家族	9	75.0%	3	25.0%
専門職				
その他				
合計	12	80.0%	3	20.0%

※平成29年度は、平成30年2月末までの集計

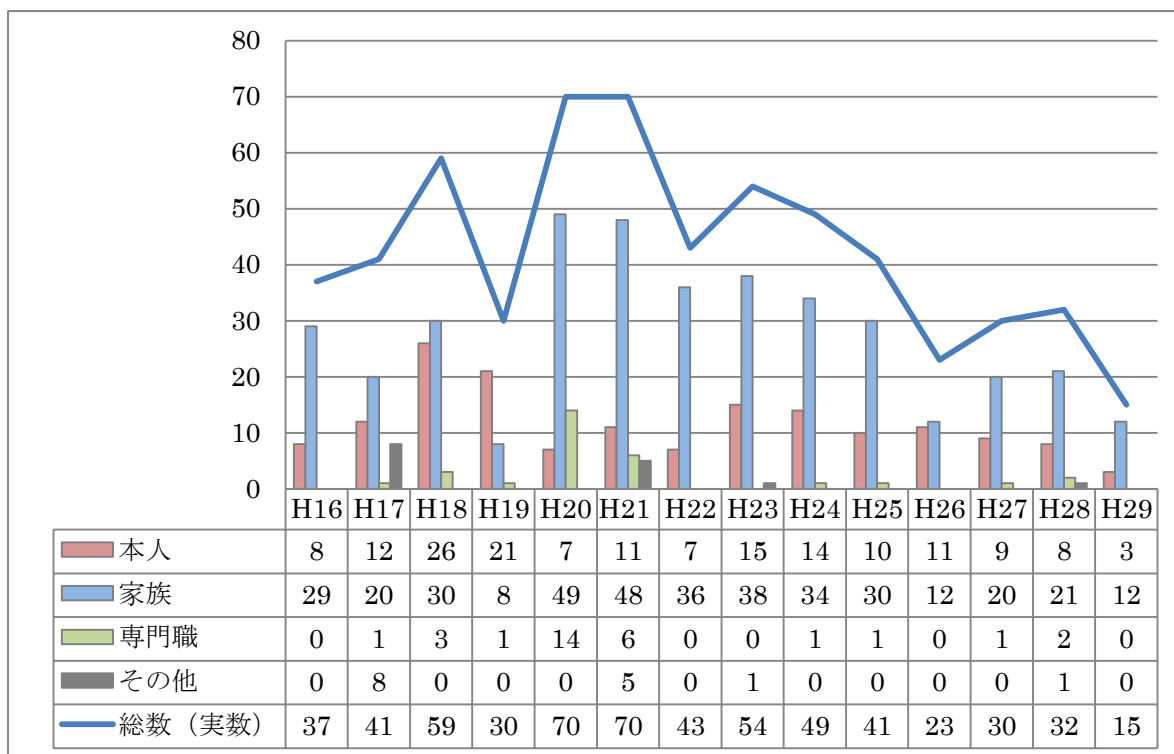
### ● H29年度緩和ケア面談相談者状況



### ● H29年度緩和ケア面談経路別状況



● 緩和ケア面接年次別相談状況



※平成29年度は、平成30年2月末までの集計

● 緩和ケア面談相談内容別状況

相談内容 年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
病気について	0	0	0	6	5	7	0	3	1	0	0	0	1
緩和ケアについて	4	3	2	9	14	14	16	13	9	5	3	1	0
症状緩和について	1	0	0	3	2	1	10	8	7	2	1	0	0
治療について	1	2	1	1	3	6	8	8	2	1	0	0	1
主治医との関係	0	0	1	6	4	4	4	0	0	2	0	0	1
セカンドオピニオン	0	0	0	2	2	0	0	2	1	2	0	0	0
緩和ケア外来受診	3	3	1	1	12	16	23	19	16	12	22	17	8
緩和ケア病棟入院	8	6	11	8	23	27	25	24	34	13	28	28	14
保険制度・費用	0	0	1	6	6	5	1	4	2	0	2	5	0
今後の療養生活	10	12	6	9	11	9	7	11	2	4	1	0	0
在宅療養について	1	2	1	10	10	6	0	1	1	1	0	0	0
デイホスピス	1	5	1	1	3	0	8	10	0	1	0	1	0
その他	12	26	5	8	16	0	1	1	1	1	0	1	0
合計(件数)	41	59	30	70	111	95	103	104	76	44	57	53	25

※平成29年度は、平成30年2月末までの集計

平成29年度の面談相談内容は、「緩和ケア外来受診」と「緩和ケア病棟入院」が多く、全体の88.0%を占めている。

### 3) 専門研修事業

#### 3)－(1) 緩和ケア医師研修(1日)

センター開設当初から、緩和ケアの推進を担う人材を育成する目的で、月1回(第2木曜日)医師研修(1日コース)を、実施してきた。年次別状況は、H19年度29名と一番多かったが、その後は減少している。内訳では、H19年度まで勤務医が多く、H20年度以降は研修医が多い。

当研修は、医師研修派遣コース受講の条件であったが、平成20年から「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」が始まり、受講者は年々減少している。この1日コース研修は、H23年度以降は院内事業として継続しており、H23年度11名、H24年度12名、H25年度15名、H26年度17名、H27年度16名、H28年度17名が受講している。H29年度は、14名の受講予定である。

#### 3)－(2) 緩和ケア医師研修(派遣コース)

- 目的 県外の先進的な緩和ケアチームにおいて、緩和ケアに関する専門的知識や技術の習得を図り、地域での緩和ケアの実践や、緩和ケア普及の核となる医師を養成する。
- 対象 次の要件を全て満たす者。
  - (1) 県内に在住若しくは勤務する医師であること。
  - (2) 「広島県緩和ケア支援センター」で実施した緩和ケア医師研修(1日コース)を既に受講しているか、がん診療連携拠点病院等で実施する「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の事務手続等に関する指針」に準拠した内容の緩和ケア研修会を既に受講している、又は今年度の受講を予定していること。
  - (3) 臨床経験を有し、次のいずれかの要件を満たしている医師であること。
    - ア) 「緩和ケアチーム」を編成し、実践しているか、又は実践予定のある施設の医師
    - イ) 緩和ケアを実践する意欲のある医師
  - (4) 研修の受講について所属長(病院長)の了承が得られること。
- 期間 2週間
- 派遣人数 3名
- その他 研修成果については、研修終了後に各受講者から県に報告いただく。

#### ■ 研修実施状況(平成29年度 3名予定)

研修受講者所属施設名	研修施設	研修期間
公立みつぎ総合病院	聖路加国際病院 〒104-8560 東京都中央区明石町9-1	平成30年2月19日(月) ～3月2日(金)
中国中央病院	聖路加国際病院 〒104-8560 東京都中央区明石町9-1	平成30年3月12日(月) ～3月23日(金)
県立広島病院	がん研究会有明病院 〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31	平成30年2月19日(月) ～3月2日(金)

### 3) - (3) 緩和ケア フォローアップ研修

■目的 がん診療に携わる医師等が、緩和ケアの基本的な知識を継続して修得することを目的に研修を実施し、がんと診断された時から適切な緩和ケアが提供できる人材を育成する。

■対象 次のいずれかの要件を満たす者

- ①厚生労働省認定のがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（緩和ケア研修会）を修了し県内に勤務する医師
- ②緩和ケアに積極的に携わっており、県内に勤務する看護師，薬剤師等，医療従事者（医師以外）

■開催日 平成 29 年 11 月 19 日（日）

■修了者 36 名

■研修内容

セッション名	講師名	ファシリテーター
M-11 治療・ケアのゴールを話し合う	小早川 誠 (広島大学病院 緩和ケア部門 診療講師)	足立 誠司 倉田 明子
M-12 アドバンス・ケア・プランニング	小原 弘之 (県立広島病院 緩和ケア科 主任部長)	小早川 誠 小原 弘之
M-7c 不眠	小早川 誠 (広島大学病院 緩和ケア部門 診療講師)	杉原 勉 田中 裕之
M-6c 倦怠感	倉田 明子 (広島市立広島市民病院 精神科 部長)	中布 龍一 (厚生連尾道総合病院 麻酔科主任部長)
M-13 輸液と栄養	田中 裕之 (広島市立安佐市民病院 麻酔科 主任部長)	笠原 庸子 (県立広島病院 薬剤科 医療技術専門員)
M-14 苦痛緩和のための鎮静	足立 誠司 (鳥取市立病院 地域医療総合支援センター長)	
M-15 死が近づいたとき	杉原 勉 (社会医療法人昌林会 安来第一病院 院長)	

#### ■受講者の背景

修了者 36 名のうち、医師 16 名、薬剤師 8 名、看護師 12 名であった。

施設別内訳は、医師は診療所が 9 名と最も多く、次いで一般病院 4 名、がん診療連携拠点病院 2 名、緩和ケア病棟を有する病院 1 名であった。薬剤師は、保険薬局 4 名、がん診療連携拠点病院 3 名、一般病院 1 名であった。看護師は、がん診療拠点病院及び緩和ケア病棟を有する病院と一般病院が各 4 名、緩和ケア病棟を有する病院 3 名、診療所 1 名であった。

年代別では、40 代が最も多く、次いで 50 代、30 代、20 代、60 代以上であった。経験年数別では、10 年以上が 31 名と最も多く、次いで 5 年以上 10 年未満が 5 名であった。

地域別では、広島圏域が 21 名と最も多く、次いで福山・府中圏域 5 名、呉圏域と尾三圏域が各 4 名、広島中央圏域と備北圏域が各 1 名であった。

#### ■全般的な評価

研修に対し、「自分が期待していたものと一致していた」「ほぼ一致していた」と回答した人は 30 名 (83.3%) であった。作業量については、「普通」が 19 名 (52.7%)、「多い」「やや多い」16 名 (44.4%) であった。難易度については、「普通」が 24 名 (66.6%)、「難しい」「やや難しい」が 9 名 (25%) であった。また、「積極的に参加できた」「ほぼ積極的に参加できた」と回答した人は、24 名 (66.6%) であった。「今後、他の医療関係者にも研修会の参加を勧めたい」と回答した人は 35 名 (97.2%) であった。

### 3) - (4) 緩和ケア 看護師研修（基礎コース）

■目的 緩和ケアに関する基本的な知識・技術を習得し、緩和ケアの実践力を養う。

■対象 次の要件をすべて満たし、全課程（2日間）をすべて出席できる者

- ①県内の医療関係機関等に勤務する保健師，助産師，看護師，准看護師
- ②現在緩和ケアに携わっている者，又は近い将来携わりたいと希望する実務経験年数3年以上の者

■開催日 第1回 平成29年7月4日（火），7月5日（水）の2日間

第2回 平成29年8月8日（火），8月9日（水）の2日間

■修了者 第1回 90名（定員40名） 第2回 71名（定員40名） 合計161名

#### ■研修内容

	時間	講義内容	講師	
1 日 目	9:00～9:10	オリエンテーション	緩和ケア支援室	スタッフ
	9:10～9:50	診断時からの緩和ケア	緩和ケア支援センター長	本家 好文
	10:00～12:00	トータルペインのアセスメント	県立広島病院 緩和ケア認定看護師	石間 律子
	13:00～16:30	がん患者とのコミュニケーション技術	県立広島病院 緩和ケア認定看護師	澤田 朱美
2 日 目	9:00～12:00	がん性疼痛のアセスメントと その実際	県立広島病院 がん性疼痛看護認定看護師	定元 美絵
	13:00～14:40	せん妄	広島市立安佐市民病院 精神科部長	日笠 哲
	14:50～16:30	グリーフケア・家族ケア	公益法人広島県看護協会 訪問看護ステーション「中央」 緩和ケア認定看護師	高瀬 真由美

#### ■受講者の背景

修了者161名のうち施設別内訳は、病院が113名と最も多く、次いで訪問看護ステーション36名、介護付有料老人ホーム4名、特別養護老人ホーム、地域包括支援センターが各2名、診療所、介護老人保健施設、グループホーム、サービス付高齢者向け住宅が各1名であった。

経験年数別では、10年以上が91名で最も多く、次いで5年以上～10年未満38名、3年以上～5年未満30名、3年未満2名であった。

圏域別では、広島圏域が最も多く86名、次いで尾三17名、呉圏域、福山・府中圏域が各16名、広島西圏域12名、広島中央圏域9名、備北圏域5名であった。

#### ■受講動機および研修に対する満足度

受講動機は、「緩和ケアに関する知識の習得」が最も多く、次いで「ステップアップを図るため」と「所属施設から勧められた」であった。

研修に対する満足度は、「満足した」「やや満足した」が161名（100%）であった。

### 3) - (5) 緩和ケア 看護師研修 (実践コース)

■目的 緩和ケアに関する専門的な知識や技術、実践方法を習得し、地域や施設において緩和ケアの実践と展開ができる看護師を育成する。

■対象 次の①②③のいずれかの要件を満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者

①平成16年度から平成18年度の緩和ケアナース育成研修(入門コース)の修了者

②平成19年度から平成24年度の緩和ケア看護師研修(初級コース)の修了者

③平成25年度から平成29年度の緩和ケア看護師研修(基礎コース)の修了者

■開催日 第1回 平成29年9月26日(火)、9月27日(水)の2日間

第2回 平成29年10月3日(火)、10月4日(水)の2日間

■修了者 第1回57名(定員40名)、第2回48名(定員40名) 合計105名

#### ■研修内容

	時間	講義内容	講師
1 日 目	9:00~10:30	緩和ケアにおけるリンパ浮腫のケア・リンパマッサージ	県立広島病院 MLAJ医療リンパドレナージセラピスト
	10:40~12:00	在宅緩和ケアチームが求める退院支援・退院調整	ほっと・はあとステーションてのひら 所長 訪問看護認定看護師 ケアマネマイスター
	13:00~16:30	がん患者の気持ちに配慮したコミュニケーション	宝塚市立病院 緩和ケア病棟 看護師長 緩和ケア認定看護師
2 日 目	9:00~10:20	緩和ケアにおける症状マネジメントのメカニズム	県立広島病院 地域連携センター入退院支援室長 がん性疼痛看護認定看護師
	10:30~12:00	緩和ケアにおける症状マネジメントの実際	県立広島病院 地域連携センター入退院支援室長 がん性疼痛看護認定看護師
	13:00~14:30	症状マネジメントⅠ ～呼吸困難を有する患者の看護～	県立広島病院 がん看護専門看護師
	14:40~16:30	症状マネジメントⅡ ～倦怠感・腹水を有する患者の看護～	県立安芸津病院 緩和ケア認定看護師

#### ■受講者の背景

修了者105名のうち施設別内訳は、病院が73名と最も多く、次いで訪問看護ステーション27名、診療所2名、介護付有料老人ホーム、グループホーム、サービス付高齢者向け住宅が各1名であった。

経験年数別では、10年以上が71名で最も多く、次いで5年以上～10年未満18名、3年以上～5年未満16名であった。

圏域別では、広島圏域が最も多く56名、次いで尾三圏域、福山・府中圏域が各13名、広島西圏域7名、呉圏域6名、広島中央圏域、備北圏域各5名であった。

#### ■受講動機及び研修に対する満足度

受講動機は、「緩和ケアに関する知識の習得」が最も多く、次いで「ステップアップを図るため」と「所属施設から勧められた」であった。研修に対する満足度は、「満足した」「やや満足した」が104名(99%)、未記入が1名(1.0%)であった。

### 3) - (6) 緩和ケア 看護師スキルアップ研修

■目的 緩和ケア看護師研修の補完的研修として位置づけ、緩和ケアの最新情報や知識、技術を習得し、看護師の更なる知識・技術の向上を図る。

■対象 次の①②③④⑤のいずれかの要件を満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者

- ①平成12年度から平成15年度に広島県看護協会が実施した「緩和ケアナース育成研修」の修了者
- ②平成16年度から平成18年度に緩和ケア支援センターが実施した「緩和ケアナース育成研修(専門コース)」の修了者
- ③平成19年度から平成24年度の緩和ケア看護師研修(中級コース)の修了者
- ④平成25年度から平成29年度の緩和ケア看護師研修(実践コース)の修了者
- ⑤緩和ケアに関する専門看護師、認定看護師(選考あり)

■開催日 平成30年1月15日(月)、1月16日(火)の2日間

■修了者 54名(定員40名)

#### ■研修内容

	時間	講義内容	講師	
1 日目	9:00~12:30	緩和ケアにおける退院支援及び地域連携の実践について	がん研有明病院 緩和ケアセンター 医療連携部 緩和ケア認定看護師	平野 和恵
	13:30~16:30	緩和ケアの事例検討	YMCA訪問看護ステーション・ピース 所長 がん看護専門看護師	濱本 千春
2 日目	9:00~12:00	地域包括ケア構築の現状と今後の課題 ～住み慣れた地域で暮らし続けることを支える条件とは～	県立広島大学 保健福祉学部 人間福祉学科 教授	金子 努
	13:00~16:30	緩和ケアにおける高齢者看護及び倫理について	有馬温泉病院 ケア開発室 室長 訪問看護ステーションありま 所長 老人看護専門看護師	西山 みどり

#### ■受講者の背景

修了者54名のうち施設別内訳は、病院が38名と最も多く、次いで訪問看護ステーション15名、グループホーム1名であった。

経験年数別では、10年以上が39名で最も多く、次いで5年以上~10年未満9名、3年以上~5年未満6名であった。

圏域別では、広島圏域が28名と最も多く、次いで尾三圏域、福山・府中圏域が各6名、広島西圏域5名、呉圏域4名、備北圏域3名、広島中央圏域2名であった。

#### ■受講動機及び研修に対する満足度

受講動機は、「緩和ケアに関する知識の習得」が最も多く、次いで「ステップアップを図るため」と「所属施設から勧められた」であった。

研修に対する満足度は、「満足した」「やや満足した」が52名(96.3%)、「あまり満足していない」が1名、未記入が1名であった。



### 3) - (7) 緩和ケア病棟看護師等研修 (ELNEC-J)

■目的 エンド・オブ・ライフケアを提供する看護師に必須とされる能力を体系的な教育プログラムにより習得し、緩和ケア病棟等における看護の質の向上を図る。

■対象 次の①②のいずれかの要件を満たし、全課程（2日間）をすべて出席できる者  
 ①県内の緩和ケア病棟勤務の看護師  
 ②看護師経験年数3年以上で、県内の医療関係機関等に勤務し、緩和ケアに積極的に携わっている者

■開催日 平成29年12月16日（土）、12月17日（日）

■修了者 32名（定員30名）

#### ■研修講師及び研修内容

井原 真利子（松江市立病院緩和ケア病棟 緩和ケア認定看護師）  
 岡山 幸子（宝塚市立病院緩和ケア病棟 緩和ケア認定看護師）  
 高梨 早苗（国立長寿医療研究センター 老人看護専門看護師）  
 札埜 和美（広島赤十字・原爆病院 がん看護専門看護師）  
 佐々木 由紀（広島都市学園大学 緩和ケア認定看護師）  
 濱本 千春（YMCA 訪問看護ステーション・ピース がん看護専門看護師）

	時間	モジュール	担当講師	ファシリテータ
1 日 目	9:00～9:30	イントロダクション・アイスブレイキング	濱本 千春	※講義担当以外の講師が担当
	9:30～10:10	M1: エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護	佐々木 由紀	
	10:20～11:05	M2: 痛みのマネジメント	岡山 幸子	
	11:15～12:00	M3: 症状マネジメント	札埜 和美	
	12:10～12:55	M4: エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題	高梨 早苗	
	13:55～15:25	M1234のケーススタディ	岡山 幸子	
	15:35～16:15	M5: エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化的配慮	濱本 千春	
	16:15～16:25	ACPについて	本家 好文	
	16:25～17:00	まとめ		
2 日 目	9:00～9:10	オリエンテーション・質疑応答	濱本 千春	
	9:10～9:50	M9: 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	高梨 早苗	
	10:00～10:40	M7: 喪失・悲嘆・死別	井原 真利子	
	10:50～11:30	M6: コミュニケーション	濱本 千春	
	11:40～12:40	M6: ロールプレイ	濱本 千春	
	13:40～14:20	M8: 臨死期のケア	井原 真利子	
	14:30～15:30	M5789のケーススタディ	札埜 和美	
	15:40～16:20	M10: 質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの達成	佐々木 由紀	
	16:20～17:00	まとめ		

## ■受講者の背景

修了者 32 名のうち施設別内訳は、病院が 24 名、訪問看護ステーション 8 名であった。病院別内訳は緩和ケア病棟を有する病院が 9 名と最も多く、次いで、がん診療拠点病院及び緩和ケア病棟を有する病院 6 名、がん診療拠点病院 5 名、一般病院 4 名であった。

経験年数別では、10 年以上が 20 名で最も多く、次いで 5 年以上～10 年未満 7 名、3 年以上～5 年未満 5 名であった。

圏域別では、広島圏域が最も多く 20 名、次いで福山・府中圏域 5 名、備北圏域 3 名、呉圏域、尾三圏域が各 2 名であった。

## ■受講者の理解度

アンケートよりエンド・オブ・ライフ・ケアの重要性についての理解は、大変そう思うが 32 名であった。また、研修内容の期待は、大変満足した 29 名、やや満足したが 2 名、無回答が 1 名であった。

### 3) - (8) 緩和ケア 薬剤師研修

■目的 緩和ケアに関する薬剤師としての専門的知識と技術を習得し、地域や施設での緩和ケアを提供できる人材を育成する。

■対象 次の要件をすべて満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者

①県内の病院、施設、又は保険薬局に勤務する薬剤師

②緩和ケアに携わっている者、又は近い将来在宅緩和ケアに携わりたいと希望している者

■開催日 平成29年10月15日(日)、10月22日(日)の2日間

■修了者 44名(定員40名)

#### ■研修内容

	時間	講義内容	講師	
1 日目	9:00~9:10	オリエンテーション	緩和ケア支援室	スタッフ
	9:10~9:50	診断時からの緩和ケア	緩和ケア支援センター長	本家 好文
	10:00~12:00	緩和ケアにおける疼痛と呼吸困難時の対応	安芸市民病院 緩和ケア部長	松浦 将浩
	13:00~13:40	在宅緩和ケアの実際 ～在宅医の立場から～	田村医院 院長	田村 裕幸
	13:50~14:50	在宅緩和ケアの実際 ～在宅薬剤師・介護支援専門員の立場から～	すずらん薬局舟入店 薬剤師	若宮 香織
	15:00~16:30	在宅緩和ケアの実際 ～訪問看護師の立場から～	YMCA訪問看護ステーション・ピース 所長	濱本 千春
2 日目	9:00~12:00	コミュニケーションの技術	広島大学 大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 教授	岡村 仁
	13:00~14:30	緩和ケアにおける痛みのアセスメントと鎮痛薬の使い分け(仮)	市立芦屋病院 薬剤部長 緩和薬物療法認定薬剤師	岡本 禎晃
	14:40~16:30	在宅緩和ケアチームでの薬剤師の役割・緩和ケアにおける薬薬連携	県立広島病院 薬剤科 薬剤師	笠原 庸子

#### ■受講者背景

修了者44名のうち施設別内訳は、保険薬局が30名と最も多く、次いで病院14名であった。

経験年数別では、10年以上が24名と最も多く、次いで3年未満11名、5年以上10年未満5名、3年以上5年未満が4名であった。

圏域別では、広島圏域が24名と最も多く、次いで尾三圏域7名、広島中央圏域6名、福山・府中圏域が各4名、呉圏域2名、広島西圏域が各1名であった。

#### ■受講動機および研修に対する満足度

受講動機は、「緩和ケアに関する知識の習得」が最も多く、次いで「ステップアップを図るため」と「所属施設から勧められた」であった。

研修に対する満足度は、「満足した」「やや満足した」が44名(100%)であった。

### 3) - (9) 緩和ケア 介護支援専門員・地域連携職種研修（基礎コース）

■目的 緩和ケアに関する基本的な知識・技術を習得し、患者・家族支援ができる。また、チームアプローチの必要性が理解できる。

■対象 次の①②のいずれかの要件を満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者

①県内の居宅介護支援事業所・介護保険施設等に勤務する介護支援専門員

②県内の医療・福祉機関・介護保険施設等で地域連携・相談業務を行っている者

■開催日 第1回 平成29年7月11日(火)、7月20日(木)の2日間

第2回 平成29年7月25日(火)、8月1日(火)の2日間

■修了者 第1回40名(定員40名) 第2回28名(定員40名)

#### ■研修内容

	時間	講義内容	講師	
1 日 目	9:00~9:10	オリエンテーション	緩和ケア支援室	スタッフ
	9:10~9:50	診断時からの緩和ケア	緩和ケア支援センター長	本家 好文
	10:00~12:00	がんに関する基礎知識及び終末期患者の特徴	広島市立広島市民病院 医療支援センター がん看護専門看護師	仁井山 由香
	13:00~16:30	コミュニケーション技術	広島大学 大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 教授	岡村 仁
2 日 目	9:00~9:30	緩和ケア病棟の役割と現状	県立広島病院 緩和ケア病棟 看護師長	古山 美由紀
	9:40~12:00	在宅緩和ケア移行時の連携	一般社団法人 広島県介護支援専門員協会 理事 かもめ居宅介護支援事業所 管理者	久保田 秀樹
	13:00~16:30	地域における「在宅緩和ケア」の現状と課題	公益法人 広島県看護協会訪問看護事業局 訪問看護事業部 部長	佐久間 美保子

#### ■受講者背景

修了者68名のうち施設別内訳は、居宅介護支援事業所が35名と最も多く、次いで病院16名、介護付有料老人ホーム、地域包括支援センター各5名、特別養護老人ホーム3名、ショートステイ2名、グループホーム、看護小規模多機能型居宅介護が各1名であった。

職種別では、介護支援専門員が43名と最も多く、次いで医療ソーシャルワーカー10名、相談員8名、看護職3名、保健師、臨床心理士、社会福祉士、介護職が各1名であった。

経験年数別では、10年以上が41名と最も多く、次いで5年以上10年未満13名、3年未満11名、3年以上5年未満が3名であった。

圏域別では、広島圏域が31名と最も多く、次いで呉圏域10名、広島中央圏域、福山・府中圏域が各8名、尾三圏域5名、広島西圏域4名、備北圏域2名であった。

#### ■受講動機および研修に対する満足度

受講動機は、「緩和ケアに関する知識の習得」が最も多く、次いで「ステップアップを図るため」と「所属施設から勧められた」であった。

研修に対する満足度は、「満足した」「やや満足した」が66名(97.1%)、「あまり満足していない」が2名(2.9%)であった。

### 3) - (10) 緩和ケア 介護支援専門員・地域連携職種研修（実践コース）

■目的 緩和ケアに関する実践方法を習得し、地域や施設において、緩和ケアの実践と展開ができる。また、医療と介護の連携、協働が図れるようにする。研修で習得した知識、技術をチームに伝達し、質を高めることができる。

■対象 次の①②③のいずれかの要件を満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者

- ①平成16年度から平成23年度に緩和ケア支援センターで開催した福祉関係者研修、地域連携研修、コーディネーター研修の修了者
- ②平成24年度コーディネーター研修（初級コース）の修了者
- ③平成25年度から平成29年度の介護支援専門員・地域連携職種研修（基礎コース）の修了者

■開催日 平成29年9月12日（火）、9月20日（水）の2日間

■修了者 32名（定員40名）

#### ■研修内容

	時間	講義内容	講師
1 日 目	9:00~10:30	地域包括ケアシステム ～在宅緩和移行時の実際～	医療法人 厚生堂長崎病院 地域連携室 室長 沖本 妙子
	10:40~12:10	緩和ケア訪問診療の実際と 在宅医が介護支援専門員に求める役割	あかりホームケアクリニック 院長 古谷 和久
	13:10~14:40	臨死期から看取りまでの関わり について、家族ケアについて	広島市域居宅介護支援事業者協議会 副会長 公益法人 広島県看護協会訪問看護ステーション「若草」 所長 川上 幸子
	14:50~16:30	グリーフケアについて	公益法人 広島県看護協会訪問看護ステーション「中央」 緩和ケア認定看護師 高瀬 真由美
2 日 目	9:00~12:00	在宅緩和ケアの実際 (チームアプローチの理解)	一般社団法人 広島県介護支援専門員協会 理事 大竹市医師会訪問看護ステーション 管理者 石井 恵子
	13:00~16:30	緩和ケアの事例検討を通して 多職種連携を考える	一般社団法人 広島県介護支援専門員協会 副会長 広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア推進アドバイザー 名越 静香

#### ■受講者背景

修了者32名のうち施設別内訳は、居宅介護支援事業所が19名と最も多く、次いで病院5名、地域包括支援センター各3名、特別養護老人ホーム2名、介護付有料老人ホーム、ショートステイ、通所介護が各1名であった。職種別では、介護支援専門員が22名と最も多く、次いで相談員5名、医療ソーシャルワーカー2名、看護職、保健師、臨床心理士が各1名であった。

経験年数別では、10年以上が23名と最も多く、次いで5年以上10年未満6名、3年未満2名、3年以上5年未満が1名であった。圏域別では、広島圏域が14名と最も多く、次いで呉圏域6名、尾三圏域4名、広島中央圏域、福山・府中圏域が各3名、広島西圏域、備北圏域が各1名であった。

#### ■受講動機および研修に対する満足度

受講動機は、「緩和ケアに関する知識の習得」が最も多く、次いで「ステップアップを図るため」と「所属施設から勧められた」であった。

研修に対する満足度は、「満足した」「やや満足した」が32名（100%）であった。

### 3) - (11) 緩和ケア・ターミナルケア ヘルパー・介護員研修

■目的 緩和ケア・ターミナルケアに関する基本的な知識と考え方を理解し、在宅緩和ケアチームの構成員としての役割を知る。

■対象 次の要件を満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者

①県内の介護保険指定事業所・介護保険施設に所属している介護福祉士及び2級以上のヘルパー、介護員

■開催日 平成29年8月22日(火)、8月24日(木)の2日間

■修了者 32名(定員40名)

#### ■研修内容

	時間	講義内容	講師	
1 日 目	9:00～9:10	オリエンテーション	緩和ケア支援室	スタッフ
	9:10～9:50	診断時からの緩和ケア	緩和ケア支援センター長	本家 好文
	10:00～12:30	在宅終末期ケアに関わる介護の知識と技術	広島市域居宅介護支援事業者協議会 副会長 公益法人広島県看護協会訪問看護ステーション 「若草」 所長	川上 幸子
	13:30～16:30	ターミナルケアの実際	公益法人 広島県看護協会訪問看護事業局 訪問看護事業部 部長	佐久間 美保子
2 日 目	9:00～12:00	信頼関係を築く コミュニケーションの 基本	広島大学 大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 教授	岡村 仁
	13:00～16:30	嚥下・咀嚼困難を有する 患者のケア	石田耳鼻科咽喉医院 院長	浜井 行夫

#### ■受講者背景

修了者32名のうち施設別内訳は、グループホームが13名と最も多く、次いで訪問介護事業所10名、特別養護老人ホーム3名、介護付有料老人ホーム2名、病院、介護老人保健施設、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護が各1名であった。

職種別では、介護職23名、サービス提供責任者6名、認知症対応型サービス事業管理者、介護職・管理者、代表取締役が各1名であった。

経験年数別では、10年以上が20名、3年以上～5年未満6名、3年未満、5年以上～10年未満が各3名であった。

圏域別では、広島圏域が19名と最も多く、次いで広島中央圏域4名、呉圏域3名、尾三圏域、備北圏域が各2名、広島西圏域、福山・府中が各1名であった。

#### ■受講動機および研修に対する満足度

受講動機は、「緩和ケアに関する知識の習得」が最も多く、次いで「ステップアップを図るため」「所属施設から勧められた」であった。

研修に対する満足度は、「満足した」「やや満足した」が31名(96.9%)、未記入1名(3.1%)であった。

### 3) - (12) 専門研修の年次別実施状況

平成16年から開始した緩和ケア専門研修について、研修内容と年次別修了状況は次のとおりである。

#### ● 専門研修の内容別年次別修了状況(平成16年度～平成29年度)

研修名	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	合計	
医師研修 (1日コース)	17名	28名	26名	29名	20名	19名	13名	終了							152名	
医師研修 (派遣コース)	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	3名	2名	3名	3名	3名	41名	
(定員)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(42名)	
フォローアップ研修										43名	43名	48名	39名	36名	209名	
医師再掲 (定員)										(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(200名)	
ナース育成研修 (入門コース)	184名	135名	331名	終了											650名	
(定員)	(300名)	(240名)	(280名)												(820名)	
看護師研修 (基礎コース) ※1				140名	181名	107名	86名	56名	80名	144名	135名	142名	141名	161名	1,373名	
(定員)				(80名)	(160名)	(80名)	(80名)	(80名)	(40名)	(80名)	(80名)	(80名)	(80名)	(80名)	(920名)	
ナース育成研修 (専門コース)	17名	23名	21名	終了											61名	
(定員)	(20名)	(20名)	(20名)												(60名)	
看護師研修 (実践コース) ※2				41名	44名	95名	80名	42名	51名	56名	87名	88名	86名	105名	775名	
(定員)				(40名)	(40名)	(80名)	(80名)	(80名)	(40名)	(40名)	(80名)	(80名)	(80名)	(80名)	(720名)	
ナース育成研修 (フォローアップコース)	26名	35名	30名	16名	15名	5名	終了								127名	
(定員)	(20名)	(80名)	(80名)	(40名)	(40名)	(40名)									(300名)	
看護師研修 (スキルアップ研修)						33名	55名	20名	33名	53名	48名	41名	31名	54名	368名	
(定員)						(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(360名)	
緩和ケア病棟看護師等研修 ※6										(23名)	(20名)	30名	47名	32名	109名	
(定員)												(30名)	(30名)	(30名)	(90名)	
薬剤師研修					50名	87名	25名	28名	32名	28名	27名	37名	50名	44名	408名	
(定員)					(40名)	(80名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(440名)	
コーディネーター研修 ※3	33名	50名	32名	38名	26名	23名	95名	56名	終了						353名	
(定員)	(20名)	(80名)	(80名)	(40名)	(40名)	(40名)	(80名)	(80名)							(460名)	
介護支援専門員・ 地域連携職種研修 (基礎コース) ※4										27名	90名	88名	66名	69名	68名	408名
(定員)										(40名)	(80名)	(80名)	(80名)	(80名)	(80名)	(440名)
介護支援専門員・ 地域連携職種研修 (実践コース) ※5										13名	47名	33名	30名	40名	32名	195名
(定員)										(40名)	(80名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(280名)
ヘルパー・介護員研修				69名	24名	75名	94名	50名	30名	70名	49名	35名	37名	32名	565名	
(定員)				(80名)	(40名)	(40名)	(80名)	(80名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(40名)	(560名)	
在宅ケアチーム研修								73名	55名	48名	44名	終了			220名	
(定員)								(80名)	(80名)	(80名)	(80名)				(320名)	
<b>修了者延数</b>	<b>280名</b>	<b>274名</b>	<b>443名</b>	<b>336名</b>	<b>363名</b>	<b>447名</b>	<b>451名</b>	<b>328名</b>	<b>324名</b>	<b>582名</b>	<b>556名</b>	<b>520名</b>	<b>543名</b>	<b>567名</b>	<b>6,014名</b>	

※1 平成24年度まで 研修名称は「看護師研修(初級コース)」, 臨床経験3年以上の要件なし

※2 平成24年度まで 研修名称は「看護師研修(中級コース)」

※3 平成16年度～平成18年度 研修名称は「福祉関係者研修」, 受講対象は医療保健福祉機関等に勤務する職員

平成19年度は 研修名称「地域連携研修」

平成19年度～ 受講対象は医療福祉機関, 地域連携室に勤務する職員

※4 平成24年度まで 研修名称は「コーディネーター研修(初級コース)」

※5 平成24年度まで 研修名称は「コーディネーター研修(中級コース)」

※6 「緩和ケア病棟等看護師研修」は, 平成25・26年度は専門研修ではなく, 施設緩和ケア推進事業の緩和ケア病棟連絡協議会のELNEC-J研修会として開催

## ■ 専門研修の経過のまとめ

- ・医師研修(1日コース)は、当初、医師研修派遣コース受講の条件であったが、平成20年からは「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を要件とし、受講者も減少したため、平成23年度から院内医師対象の研修として実施している。
- ・広島大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プランで実施していた、緩和ケアフォローアップ研修を平成25年度より県の研修として位置づけ、緩和ケアに携わる医師の質の担保に努めている。
- ・平成16～18年度「緩和ケアナース育成研修(入門・専門コース)」は、広島県看護協会から引き継いだかたちで実施し、平成19年度から、広島大学大学院 保健学研究科 附属先駆的看護実践支援センター 緩和ケア認定看護師教育課程が設置されるとともに終了とした。
- ・平成12～15年度広島県看護協会で開催した緩和ケアナース育成研修受講者127名と、平成16～18年度当センターで開催した緩和ケアナース育成研修(専門コース)受講者62名 計189名を対象に、フォローアップ研修を実施したが、対象者の勤務状況の変化もあり受講者が減少したため、スキルアップ研修に統合し、発展的に終了した。
- ・平成19年度以降看護師研修は、初級コース、中級コース、スキルアップ研修として実施した。25年度より看護師基礎コースの質の担保のため、受講要件に臨床経験3年以上を追加した。看護師研修初級コース・中級コースの名称を基礎コース・実践コースと受講者にわかりやすく変更した。
- ・福祉関係者を対象とした専門研修は、平成21年度から名称を変更し、コーディネーター研修として実施した。平成23年度から初級コース、中級コースを実施した。平成25年度よりコーディネーター研修の名称を介護支援専門員・地域連携職種研修とし初級コースを基礎コースに中級コースを実践コースに変更し、受講対象者を明確にし実施している。
- ・平成19年度からヘルパー・介護員研修、平成20年度から薬剤師研修、平成23年度から医師ほか各職種による在宅ケアチーム研修を開始し、各職種が研修を積み重ね、チームの一員として役割を担う研修体制を整備した。
- ・平成23年度から開始した在宅ケアチーム研修は参加人数が年々減少し、地域や施設で事例検討会が開催されるようになって来た。また退院前カンファレンスについては必要性や方法等、理解が深まってきた。平成27年度からは在宅ケアチーム(多職種連携)について各地域・施設で習得できるよう県で支援し、本研修は発展的に終了とした。
- ・平成27年度より主に緩和ケア病棟に勤務する看護師を対象に、エンドオブライフケアの研修として、緩和ケア病棟看護師等研修(ELENEC-J研修)を専門研修として位置づけ緩和ケアの質の向上のため開催した。



#### 4) 地域連携支援事業

##### 4)－(1) 緩和ケア推進アドバイザー派遣事業

● 趣 旨	県内各地域において緩和ケアを推進している団体等に対して、アドバイザーを派遣し、その活動を支援する。地域における専門的技術を習得し、地域の緩和ケアネットワークづくりの推進を図る。
● 対 象	がん診療連携拠点病院を含む医療機関 介護保険事業所（施設 在宅サービス）訪問看護ステーション 等

##### ■アドバイザー構成員

分 野	ア ド バ イ ザ ー	
総括・医療	広島県緩和ケア支援センター センター長	本家 好文
医療（在宅）	まるやまホームクリニック 院長	丸山 典良
在宅支援	一般社団法人広島県介護支援専門員協会 副会長	名越 静香
在宅支援	YMCA訪問看護ステーション・ピース 所長	濱本 千春
在宅支援	尾道市公立みつぎ総合病院 訪問看護ステーション「みつぎ」参与	國西 栄子
在宅支援	安芸高田市医師会 事務局長（兼）訪問看護ステーション 管理者補佐	近村 美由紀
連携支援	広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室長	亀井 典子

##### ■平成29年度 緩和ケア推進アドバイザー派遣事業実施状況

障害者施設等からの申請があり、介護保険施設に限らず障害者施設においても高齢者が増加し、緩和ケア・看取り研修のニーズがある。

	年月	二次保健医療圏 (市町)	支 援 内 容		参加者数	支援スタッフ
			対象	内容等		
1	29.6	広島西 (廿日市市)	日本基準寝具職員(看護職, 介護支援専門員, 介護士等)	在宅緩和ケア・看取り研修	35人	1人
2	29.6	尾三 (三原市)	特養, 養護, 訪問介護, デイサービス等職員(介護職, 看護職等)	在宅緩和ケア・看取り研修	49人	1人
3	29.6	広島中央 (東広島市)	デイサービス, 小規模多機能ホーム等職員(	在宅緩和ケア・看取り研修	20人	1人
4	29.7	尾三 (尾道市)	特養, 養護, ケアハウス, 居宅介護支援等職員(介護職, 看護職等)	在宅緩和ケア・看取り研修	60人	1人
5	29.7	広島 (安芸太田町)	特養職員(看護師, 介護士, 介護支援専門員等)	在宅緩和ケア・看取り研修	50人	1人
6	29.7	広島 (安芸区)	医師, 看護師, 薬剤師, 施設長	院内における緩和ケア・看取りケアの体制整備に向けて	5人	1人

	年月	二次保健医療圏 (市町)	支 援 内 容		参加 者数	支援 スタ ッフ
			対象	内容等		
7	29.7	広島 (安芸郡)	特養, 老健, 訪問介護等 職員(相談員, 看護職, 介 護職等)	在宅緩和ケア・看取り 研修	81 人	1 人
8	29.8	広島西 (大竹市)	職員(介護支援専門員, 看護師, 介護職等)	在宅緩和ケア・看取り 研修	23 人	1 人
9	29.9	広島 (安佐北)	グループホーム職員, 他 の近隣施設職員	在宅緩和ケア・看取り 研修	42 人	1 人
10	29.10	広島 (広島市)	薬剤師	疼痛緩和につて	91 人	—
11	29.10	広島中央 (東広島市)	特養職員(看護師, 介護 士, 介護支援専門員等)	在宅緩和ケア・看取り 研修~事例検討~	9 人	1 人
12	29.11	広島中央 (東広島市)	支援員, 看護師	在宅緩和ケア・看取り 研修	27 人	1 人
13	29.11	福山・府中 (府中市)	上下地区の在宅, 介護施 設, 病院等職員(医師, 看護 師, 介護職, 介護支援専門 員等)	在宅緩和ケア研修会	63 人	1 人
14	29.12	尾三 (尾道市)	看護師, 介護職員, 歯科 衛生士, 管理栄養士, 介 護支援専門員	在宅緩和ケア・看取り 研修	20 人	1 人
15	30.2	広島西 (廿日市)	廿日市市訪問介護事業 所職員(サービス提供責任 者, 介護職)	在宅緩和ケア・看取り 研修	45 人	1 人
参加者数の合計					620 人	

- 課題
- ・ 県内各地の緩和ケアネットワークづくりを促進する実施方法の検討
  - ・ 地域在宅緩和ケアを担う介護保険関係施設等における研修機会提供の充実

## 5) 緩和ケアボランティア活動

- |       |   |
|-------|---|
| ●趣 旨  | 患者・家族が心安らかで充実した日々を送ることができるよう、患者・家族支援、デイホスピス、ティーサービス、アロマ、情報収集室、イベント、また、季節を感じながら日々気持ちよく過ごしてもらうための環境整備（花の手入れ、季節の飾り等）創作活動等の活動を行う。 |
| ●活動時間 | 10：00～16：00（終日の参加、午前、午後の活動も可能）  |
| ●活動内容 | 朝のミーティングにおいて、情報伝達、情報交換を行ったのち各活動を開始し、午前の終了時ミーティングを行い、活動時（後）の気づき等を話し合い、情報共有を図る。   |

### ■活動分野別活動状況

平成30年2月末現在、緩和ケアボランティア登録者数は158名で、平成29年度に1回でも活動した人は84名、年間を通して定期的に活動しているボランティア人数は54名であった。また、延べ参加者数は、949名であった。

活動分野別にみると、年間223日開所している情報収集室での活動延べ数229名、環境整備303名、緩和ケア病棟でのティーサービス131名、アロマトリートメント69名、患者家族支援活動274名、絵手紙147名、絵手紙以外の創作活動108名、イベントボランティア64名であった。

### ■活動内容

活動内容	成果
<b>情報収集室</b> 情報収集室（図書室）の受付、図書の整理などを行う。	情報収集室の利用者に笑顔で親切に対応している。また、患者・家族に必要な情報をスクラップして提供している。
<b>環境整備</b> 花の水やり、鉢の植え替えなど屋上庭園の整備・観葉植物・草花などの世話を行う。	観葉植物・花の手入れを行い、いつも緑がある安らぎの場を提供している。屋上庭園は季節の花が楽しめ、患者・家族の癒しの場になっている。
季節の草花を持参し、ラウンジ等に飾っている。また、季節うつろいを感じられるように飾り棚に季節毎の飾りを行う。	飾りや草花に季節感を味わい、昔を懐かしみ、忘れていた季節や思い出をとり戻すひと時にもつながっている。
<b>ティーサービス</b> 患者・家族に真心のこもった飲み物のサービスを行う。	お茶などのサービスとボランティアの笑顔で、温かい雰囲気を出している。また、音楽を聴きながらホッと一息つくことや安らぎを感じることができ、患者・家族から好評である。
<b>アロマトリートメント</b> アロマセラピストによるアロマトリートメントの施術	アロマの心地よい香りとボランティアの手・心の温もりに癒され、心地よいひと時を過ごすことができ、患者の楽しみにもつながっている。
<b>患者・家族の支援活動</b> 火・木曜日に患者・家族の支援を行う。（花の水換え、洗濯、買い物、散歩、話し相手、繕い物等）	入室許可された部屋を尋ね、話し相手、花の水換え、洗濯等の支援を行っている。利用者は増加傾向で、ボランティアの来る日を楽しみにしている人もいる。

活動内容	成果
<b>創作活動</b> 患者に季節感を味わってもらうため、季節ごとに創作品を各部屋に飾っている。	少しでも季節感が味わえるように、毎月、季節に応じた創作品や写真を病室に配布している。患者・家族などから病室の中でも季節感が味わえると喜ばれている。
<b>(絵手紙)</b> 病棟ラウンジにて定期的に第1・2・3木曜日第4月曜日に4回/月開催。	ラウンジでの絵手紙は、和やかな雰囲気を感じられる。絵手紙を一緒に書くことで楽しい時間を過ごしている。作品ができあがることで、達成感を味わうことができたり、作品をみながら、家族や他の参加者と笑顔で会話が弾んでいる。
<b>(折り紙・塗り絵・カードづくりなど)</b> 病棟ラウンジで2~4回/月 (毎週火曜日) 患者さんも交えて開催	折り紙で小物入れなどを作ったり、ポップアップカード作ったりして楽しんでいる。初めてでもボランティアの方に丁寧に教えていただき、短時間で作品を完成している。折り紙作品を見学される家族もいる。
<b>(水引細工)</b> 幾つもの色の水引で、小物を編んだ作品を病棟に展示	水引を用いて、作品をつくり病棟に展示している。希望があれば患者・家族の方に参加してもらい作品をつくる。キーホルダーやネックレスなどを作り喜ばれている。
<b>裁縫</b> 緩和ケア病棟からの依頼で裁縫を行っている。	病棟で使用している体位変換のクッションなどの修繕している。
<b>イベント</b> 緩和ケア病棟ラウンジにて木曜日のティーサービスの時間に音楽演奏やイベントなどを行っている。 ピアノ、ヴァイオリン、シター、ライアー、ジャグリング、ギター、サックス、フルート、コントラバス、オーボエ、マリンバ、鍵盤ハーモニカ、琴等を開催	初めて聞く楽器演奏もあり、音楽を聴きながら、お茶を楽しみ、穏やかな癒しの時間を過ごされている。音楽を聴いている時間は、病気のことを忘れられると楽しみにしておられ、自分の思い出の曲等のリクエストにも対応できるため患者・家族に好評である。

- 平成 29 年度緩和ケアボランティアの活動人数は 84 名であり、火曜日の折り紙、カード作り、塗り絵、フォトフレーム、木曜日の絵手紙などの活動が広がっている。火曜日・木曜日の患者・家族支援活動は、患者・家族のニーズに合った個別的な支援（散歩・話し相手・洗濯・買い物など）が行えていた。アロマトリートメント、絵手紙、ポップアップカード作り、塗り絵、折り紙、水引細工作りなどの支援活動を通じて、病気や不安を忘れ、穏やかなひと時を過ごせるという方もおられ、患者・家族の QOL 向上にも役立っている。また、ボランティアの来る日を心待ちにしている患者・家族もおられ、チームの一員としての役割を果たしている。平成 30 年 3 月 31 日をもって広島県緩和ケア支援センターは廃止となるが、ボランティア事業に関しては、県立広島病院に移管して、患者・家族のその人らしさが支えられるボランティア活動を提供できるように引き継ぐ。
- ホスピスケア週間（10 月 8 日～14 日）の 10 月 12 日に、マリンバ撫子さんによるマリンバコンサートを開催した。緩和ケア病棟入院中の患者や家族の方など楽しい一時を過ごされていた。また、ボランティアが折り紙などでポスターを作成し、県立広島病院の玄関ホールにホスピス緩和ケア週間に展示した。これらの活動を日本ホスピス緩和ケア協会に報告した。

## ボランティア活動風景

音楽イベント



コーナー飾り



緩和ケア週間



クリスマス会



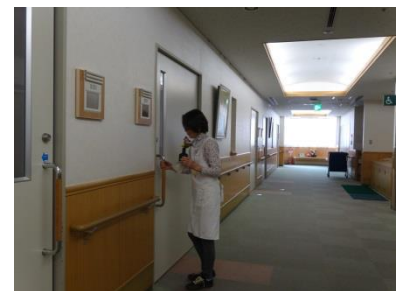
ティーサービス



季節の生花飾り



患者支援活動



絵手紙



折り紙



情報収集室



## 6)在宅緩和ケア推進事業

「在宅緩和ケア推進事業」は、全県での在宅緩和ケアコーディネーターの活動の仕組みづくりと普及のための検討等を行う検討会議（地域在宅緩和ケア推進協議会）と、平成25年度から平成28年度まで実施した地域在宅緩和ケア推進モデル事業について、全てのモデル地区の実践と成果と踏まえた「在宅緩和ケアコーディネーターの配置と活動の拡充のための提案」として最終報告書の作成及び県民向け講演会と従事者研修会を事業内容とし実施した。

### 6)-(1)地域在宅緩和ケア推進協議会

第2次広島県がん対策推進計画に掲げる「がんと診断された時から、希望する場所で、すべてのがん患者と家族が、適切な緩和ケアを受けられること」を実現するため、質の高い在宅緩和ケアを確実に円滑に提供する体制を整備するために必要な取り組み等の検討を行うため、地域在宅緩和ケア推進協議会を設置する。

H29年度地域在宅緩和ケア推進協議会委員名簿

区分	所 属	職 名	氏 名
委員長	広島県緩和ケア支援センター	センター長	本家 好文
委員	広島県薬剤師会	副会長	青野 拓郎
委員	福山市民病院	がん診療統括部次長	岡崎 正典
委員	広島県医師会	常任理事	小笠原英敬
委員	安芸市民病院 緩和ケア病棟	看護師長	勝田 佳民
委員	一般社団法人広島県介護支援専門員協会 かもめ居宅介護支援事業所	理事 管理者	久保田秀樹
委員	広島大学病院	主任看護師長	家護谷五月
委員	広島県看護協会訪問看護事業局	訪問看護事業部部长	佐久間美保子
委員	東広島地区医師会	理事	高橋 宏幸
委員	まるやまホームクリニック	院長	丸山 典良
委員	広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課	課長	藤田 善久
委員	広島県健康福祉局がん対策課	課長	佐々木真哉
委員	広島県緩和ケア支援センター緩和ケア支援室	室長	亀井 典子

(各機関の委員 五十音順)

※モデル事業実施施設の担当者には、オブザーバーとして出席いただいた。

会 議	<p>日 時：平成29年8月29日（火）19：00～21：00</p> <p>内 容：地域緩和ケア研修会について 在宅緩和ケアコーディネーター連絡会について 地域包括ケアシステム構築の取組状況 在宅緩和ケア推進モデル事業活動報告 在宅緩和ケア推進モデル事業の評価と今後の推進方策 等</p> <p>出席委員：委員13名、オブザーバー6名</p>
-----	--

# 「在宅緩和ケア推進事業」の経過

## 「在宅緩和ケア推進事業」の概要

### 地域在宅緩和ケア推進協議会（県設置）

- モデル地区での活動の検証と全県での制度設計  
在宅緩和ケア推進協議会においてモデル地区での実践等から、在宅緩和ケアコーディネーター配置形態・役割などの仕組みづくりと全県への普及方策について検討
- 資源マップ共通モデル検討
- 地域連携クリティカルパスの検討 等

### 推進モデル事業（各実施施設）

- モデル地区での制度設計及び検証
- 在宅緩和ケアコーディネーター（以下、Co）配置・活動
- 資源マップ、地域連携クリティカルパスの検討 等

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広島県がん対策推進計画(H20～)	第2次計画策定(H25.3)	第2次計画スタート ←				第2次計画最終年 第3次計画策定(H30.3) →
地域在宅緩和ケア推進協議会(県設置)		協議会設置 2回開催(8/12, 3/3)	2回開催(5/26, 3/6)	委員の再編成 2回開催(8/7, 3/4)	2回開催(7/29, 2/9)	委員の再編成 1回開催(8/29)
地域在宅緩和ケア推進モデル事業  ① 在宅緩和ケアCo配置と活動 ② 地域ネットワーク会議の実施 ③ 地域資源マップ作成・活用 ④ 地域連携パスの検討 ⑤ その他	[広島西] JA広島総合病院 (国指定がん診療連携拠点病院)		← 実施 →	← 実施 →	← 継続 →	← 継続 →
	[広島中央] 東広島地区医師会		← 実施 →	← 実施 →	← 継続 →	← 継続 →
	[広島] 広島市立安佐市民病院 (国指定がん診療連携拠点病院)			← 実施 →	← 継続 →	← 継続 →
	[備北] 市立三次中央病院 (国指定がん診療連携拠点病院)			← 実施 →	← 継続 →	← 継続 →
	[福山・府中] 福山市医師会			← 実施 →	← 継続 →	← 継続 →
	[呉] 呉市医師会				← 実施 →	← 継続 →
	[尾三] 三原市医師会				← 実施 →	← 継続 →
在宅緩和ケアコーディネーター研修・連絡会			研修会(9/26)	連絡会3回 (7/14, 10/16, 1/19)	連絡会3回 (5/24, 9/2, 1/24)	連絡会2回 (6/27, 12/23)
事業報告書				中間報告書検討・作成		最終報告書作成

[ ]内は二次保健医療圏域名

(関連事業等)

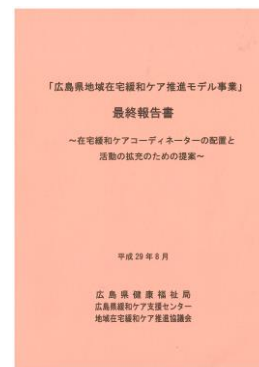
国がん対策基本計画(H19～)	【国】変更計画策定(H24.6)					【国】変更計画策定(H29.10)
がん診療連携拠点病院の指定(H18～)	国指定11病院(全7圏域) 県独自指定5病院	【国】整備指針の改定(H26.1) ・診断時からの苦痛のスクリーニング ・緩和ケアチームの活動充実 ・病連携病診連携の協力体制 (2次圏域のマップ・リスト作成等、地域の緩和ケア体制の情報提供) ・県拠点に緩和ケアセンター整備 等			【県】県指定拠点病院指定要綱の改正(H27.4) ・国指定要件とほぼ同様の要件に改正 【国・県】新指定要件による指定(国指定11, 県独自指定5)	
地域包括ケアシステム構築に関する主な関連事業	【国】在宅医療連携拠点事業 【県】在宅医療推進医(コミュニケーションリーダー)の養成(2年間)	【県】在宅医療推進拠点整備事業(2年間)	【県】在宅医療人材育成基盤整備事業	【市町】介護保険事業)新たな地域支援事業(在宅医療・介護連携の推進等)開始 (H30.4.1から完全実施)		

## 6)-(2) 地域在宅緩和ケア推進モデル事業

平成 25 年度から平成 28 年度まで県内 7 地区で地域の実状に応じた緩和医療と介護等サービスの連携・調整を担う「在宅緩和ケアコーディネーター」の配置を中心としたモデル事業を実施し、全てのモデル地区の実践と成果を踏まえた

「在宅緩和ケアコーディネーターの配置と活動の拡充のための提案」として最終報告書を作成し、各関係機関へ配布した。

今後はこのモデル事業における取組の成果を県内全域に広げていく必要がある。



## 6)-(3) 在宅緩和ケアコーディネーター連絡会

在宅緩和ケアコーディネーターの質の向上と活動の充実を目的に実施した。

### 1 目的

第 2 次広島県がん対策推進計画に基づき、平成 25 年度から病院と在宅医療の相互連携、医療と介護の連携等の地域の調整役を担う在宅緩和ケアコーディネーター（以下、在宅緩和ケア Co）の配置を進め、地域ごとの在宅緩和ケア提供体制の充実に取り組んでいる。

在宅緩和ケア提供体制構築を推進するには、在宅緩和ケア Co の活動の充実が不可欠であり、研修・情報交換等により質の向上・活動の充実を図ることを目的に本連絡会を開催する。

### 2 対象

平成 25～28 年度地域在宅緩和ケア推進モデル事業実施施設の在宅緩和ケア Co

- (対象施設) ①東広島地区医師会 ② J A 広島総合病院  
③市立三次中央病院 ④広島市立安佐市民病院 ⑤福山市医師会  
⑥三原市医師会 ⑦呉市医師会

### 3 日程及び内容

日 時	主 な 内 容	参加者数
6 月 27 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅緩和ケア推進事業の実践報告 (呉市医師会・三原市医師会)</li> <li>在宅緩和ケア推進事業に関する確認表について</li> <li>在宅緩和ケア推進事業最終報告書 (案) について</li> <li>各地区の活動状況及び情報交換</li> </ul>	Co 9 人 その他 1 人
12 月 23 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 30	地域緩和ケア研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域在宅緩和ケア推進モデル事業の概要について</li> <li>地域在宅緩和ケア推進モデル事業の実践報告</li> <li>講演「わが国のがん医療における地域緩和ケア連携の方向性」～地域の状況に応じた連携体制の構築を目指して～</li> </ul>	Co 12 人

## 6)-(4) 地域緩和ケア研修会

日 時 : 平成 29 年 12 月 23 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 30

場 所 : 県立広島病院中央棟 2 階講堂

内 容 : 1 地域在宅緩和ケア推進モデル事業の概要について

広島県緩和ケア支援センター センター長 本家 好文

2 地域在宅緩和ケア推進モデル事業の実践報告

【拠点病院配置型】広島市立安佐市民病院精神科 主任部長 日笠 哲

【医師会配置型】福山市医師会 理事, まるやまホームクリニック 院長 丸山 典良

3 講演「わが国のがん医療における地域緩和ケア連携の方向性」

～地域の状況に応じた連携体制の構築を目指して～

講師 国立がん研究センター がん対策情報センターがん医療支援研究部長 加藤 雅志



対象者：地域在宅緩和ケアに携わる医療保健福祉関係者，病院緩和ケアチーム・緩和ケア病棟従事者  
保健医療福祉行政担当者等

参加者：119人（医師，看護師，MSW，保健師，薬剤師，社会福祉士，介護支援専門員等）



## 6)－(5)在宅緩和ケア講演会（県民対象）

日時	平成 29 年 9 月 9 日（土） 14：00～16：30
開催場所	広島国際会議場 ヒマワリ（広島市中区中島町1番5号）
テーマ	「在宅緩和ケア ～ケアタウン小平チームの取り組み～」
講師	山崎 章郎／ケアタウン小平クリニック 院長
参加者数	166 名
後援	広島県医師会 広島市医師会 広島県歯科医師会 広島県薬剤師会 広島県看護協会 広島県地域包括ケア推進センター

がん患者さんが住み慣れた家庭や地域で療養し生活することが選択でき、また、それを支援する家族、関係者、地域社会の取り組みの推進及び、在宅緩和ケアの啓発と体制の充実を図るため、コミュニティケアを目指した「ケアタウン小平」でケアタウン小平クリニック院長として、精力的に訪問診療活動を行っていらっしゃる山崎章郎先生にご講演いただきました。

### 講演風景



会場の運営（受付、会場案内等）は緩和ケアボランティアの皆様にご協力いただきました。



### 【講演会の感想】～アンケート結果から～（一部抜粋）

「自分の死に方について改めて考えさせられた」「地域を引き込んで、それを還元しながら在宅医療の充実を図ってきたことに感銘を受けた」「看取りと尊厳のあり方について勉強になった」「在宅は人とのつながりと人の思いを共感共有する大切さがあると感じた」「いつも患者の目線にそった姿勢があり、あたたかいお話だった」

## 7) 施設緩和ケア推進事業

### 7)－(1)緩和ケアチーム等連絡協議会

第2次広島県がん対策推進計画に掲げる「がんと診断された時から、希望する場所で、すべてのがん患者と家族が、適切な緩和ケアを受けられること」を実現するため、質の高い施設緩和ケアを確実にかつ円滑に提供する体制を整備するために必要な取り組み等（主に緩和ケアチーム等に関すること）の検討を行うため、緩和ケアチーム等連絡協議会を設置する。

緩和ケアチーム等連絡協議会名簿

区分	氏名	施設名
委員長	本家好文	広島県緩和ケア支援センター
委員	國田哲子	一般社団法人広島県医師会
委員	上杉文彦	独立行政法人国立病院機構東広島医療センター
委員	小野田正	尾道市立市民病院
委員	倉田明子	広島市立広島市民病院
委員	児玉寛治	国家公務員共済組合連合会呉共済病院
委員	小早川誠	広島大学病院
委員	小原弘之	県立広島病院
委員	小松弘尚	広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院
委員	佐伯俊成	市立三次中央病院
委員	砂田祥司	独立行政法人国立病院機構呉医療センター
委員	高橋健司	独立行政法人国立病院機構福山医療センター
委員	高橋護	独立行政法人労働者健康安全機構中国労災病院
委員	田中裕之	地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立安佐市民病院
委員	寺尾正子	福山市民病院
委員	則行敏生	広島県厚生農業協同組合連合会尾道総合病院
委員	松田裕之	広島赤十字・原爆病院
委員	鷺尾一浩	公立学校共済組合中国中央病院
委員	佐々木真哉	広島県健康福祉局がん対策課
委員	亀井典子	広島県緩和ケア支援センター緩和ケア支援室

(がん診療連携拠点病院の委員 五十音順)

会 議	<p>日 時：平成 29 年 8 月 28 日（月）19：00～20：50</p> <p>内 容：医師に対する緩和ケア研修会の開催状況について 緩和ケアチーム活動状況調査について 等</p> <p>出席委員：19名</p>
-----	---

## 7)－(2)緩和ケア病棟連絡協議会

第2次広島県がん対策推進計画に掲げる「がんと診断された時から、希望する場所で、すべてのがん患者と家族が、適切な緩和ケアを受けられること」を実現するため、質の高い施設緩和ケアを確実に円滑に提供する体制を整備するために必要な取り組み等（主に緩和ケア病棟に関すること）の検討を行うため、緩和ケア病棟連絡協議会を設置する。

緩和ケア病棟連絡協議会委員名簿

区分	氏名	施設名
委員長	本家 好文	広島県緩和ケア支援センター
委員	岩田 尚士	医療法人社団曙会シムラ病院
委員	岡崎 正典	福山市民病院
委員	沖政 盛治	医療法人 JR 広島病院
委員	加太 周	広島医療生活協同組合広島共立病院
委員	小原 弘之	県立広島病院
委員	砂田 祥司	独立行政法人国立病院機構呉医療センター
委員	田中 佳人	尾道市公立みつぎ総合病院
委員	花田喜美香	医療法人和同会広島パークヒル病院
委員	番匠谷孝廣	医療法人社団清風会廿日市記念病院
委員	前原 弘江	医療法人慈生会前原病院
委員	松浦 将浩	広島市医師会運営安芸市民病院
委員	佐々木真哉	広島県健康福祉局がん対策課
委員	亀井 典子	広島県緩和ケア支援センター緩和ケア支援室

(各医療機関の委員 五十音順)

会 議	<p>日 時：平成 29 年 7 月 18 日（火）18：30～20：20</p> <p>内 容：緩和ケア病棟運用状況調査について 緩和ケア病棟看護師（ELNEC-J）研修について 等</p> <p>出席委員：11 名</p>
-----	---

## 7)－(3)施設緩和ケア従事者研修会

日 時：平成 30 年 2 月 17 日（土）14：00～16：30

場 所：県立広島病院中央棟 2 階講堂

内 容：講演「今後の緩和ケアの役割とあり方について」

～第3期がん対策推進基本計画から～

講師 淀川キリスト教病院 緩和医療内科

主任部長 池永 昌之 先生

対象者：緩和ケア病棟・緩和ケアチーム及び

地域在宅緩和ケアの業務に従事している医療従事者

参加者：97 名

医師・薬剤師・看護師・MSW・臨床心理士等

※緩和ケア病棟関係者については、研修会前に職種別交流会

(医師・看護師長等・MSW)を開催



## 講演, 学会, 研究, 執筆活動等

### 1 緩和ケア支援センター

#### (1) 著書・論文

- 1) 本家好文: ACP (アドバンス・ケア・プランニング) ～もしもの時のために話し合いをはじめよう. 広島医学 Vol.70.No.3. 2017 別冊 P.180-184
- 2) 本家好文: 平成 28 年度終末期医療のあり方検討専門委員会報告書. 「広島県地域保健対策協議会調査研究報告書」 P.125-153

#### (2) 研修会・講義・講演等

- 1) 本家好文. 緩和ケアにおける倫理 広島大学大学院生命・医療倫理 2017.5.24. 広島
- 2) 本家好文. 緩和ケアの実践 (1) 県立広島大学保健福祉学部看護学科 2017.6.2. 三原
- 3) 本家好文. 緩和ケアの実践 (2) 県立広島大学保健福祉学部看護学科 2017.6.9 三原
- 4) 本家好文. 診断時からの緩和ケア 緩和ケア看護師研修 (基礎コース) 2017.7.4. 広島
- 5) 本家好文. 診断時からの緩和ケア 緩和ケア介護支援専門員・地域連携職種研修  
2017.7.11. 広島
- 8) 本家好文. 診断時からの緩和ケア 緩和ケア介護支援専門員・地域連携職種研修  
2017.7.25. 広島
- 9) 本家好文. がんの臨死期にある患者の身体特徴とプロセスにおける Oncology Emergency  
島根県立大学認定看護師教育課程 2017.7.31 出雲
- 10) 本家好文. 臨死期の身体特徴と症状への治療  
島根県立大学認定看護師教育課程 2017.7.31 出雲
- 11) 本家好文. 診断時からの緩和ケア 緩和ケア看護師研修 (基礎コース) 2017.8.8. 広島
- 12) 本家好文. 診断時からの緩和ケア 緩和ケア・ヘルパー・介護員研修 2017.8.22. 広島
- 13) 本家好文. ACP について 第 43 回国保連合会学会 2017.8.26. 広島
- 14) 本家好文. 緩和医療 広島都市学園大学看護学科 2017.09.26 . 広島
- 15) 本家好文. ACP (アドバンス・ケア・プランニング)  
～もしもの時のために話し合いをはじめよう～  
安佐南区地対協研修会 2017.09.28. 広島
- 16) 本家好文. 診断時からの緩和ケア 緩和ケア薬剤師研修 2017.10.15. 広島
- 17) 本家好文. 医学概論 (1) 日赤広島看護大学 2017.10.18. 廿日市
- 18) 本家好文. 医学概論 (2) 日赤広島看護大学 2017.10.25. 廿日市
- 19) 本家好文. 医学概論 (3) 日赤広島看護大学 2017.11.01. 廿日市
- 20) 本家好文. 医学概論 (4) 日赤広島看護大学 2017.11.08. 廿日市
- 21) 本家好文. ACP について 長崎北部地区緩和ケア学術講演会 2017.11.10 佐世保
- 22) 本家好文. 医学概論 (5) 日赤広島看護大学 2017.11.15. 廿日市
- 23) 本家好文. 医学概論 (6) 日赤広島看護大学 2017.11.22. 廿日市

- 24) 本家好文. アドバンスケアプランニングと意思決定支援、雲南圏域緩和ケア研修会  
2017. 12. 03. 雲南
- 25) 本家好文. ACP (アドバンス・ケア・プランニング)  
～もしもの時のために話し合いを始めよう、  
第 44 回鳥取市立病院市民医療講演会 2017. 12. 10. 鳥取
- 26) 本家好文、早い段階から取り組むアドバンス・ケア・プランニング、  
第 32 回日本がん看護学会学術集会 シンポジウム 2018. 02. 03. 千葉

## 2 緩和ケア科

### (1) 学会・研究会発表

- 1) 小原弘之, 定元美絵, 笠原庸子, 舟木洋美: 高流量酸素療法を併用して呼吸困難の緩和を図った進行肺がんの一例. 第 17 回日本死の臨床研究会中国・四国支部研究会 2017. 5. 28  
広島
- 2) 小原弘之: 医療・介護関連肺炎 (NHCAP) の包括的治療戦略-がん終末期の包括的な治療に向けて-. 第 22 回日本緩和医療学会学術大会. 2017. 6. 23, 横浜

※講演, 学会, 研究, 執筆活動等は, 平成 29 (2017) 年 4 月～平成 30 (2018) 年 2 月まで